


 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)


 No.35

● ● ● 目 次 ● ● ●

・特集：「NPO 法人 日本がん・生殖医療研究会」との連携について	1
・フォーラム「うむって すばらしい…」in 米子に参加して	2
・第11回日本生殖看護学会学術集会のご案内	3
・もし不妊看護の現場で行き詰ったら・・・	3
・生殖看護セミナーのご案内	4
・各地で開催される勉強会の助成	4
・第5回関西地区勉強会開催報告	5
・第9回九州地区勉強会開催案内	5
・これから行われる学会・研修会情報	6
・理事会報告	7
・掲示板	7
・不妊症看護認定看護師リレー寄稿	8
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8


特集：「NPO 法人 日本がん・生殖医療研究会」との連携について

日本生殖看護学会理事長 野澤美江子

昨今のニーズをふまえ、本学会が妊孕性を考慮した支援について検討する時期にあることは、ニュースレターでもお伝えしました。近年、がん医療の進歩によって多くの患者がサバイバーとなっています。そして、患者のQOL向上を考慮した妊孕性温存の考え方が広がり、がん患者が妊孕性を温存した治療を選択する機会が増加しつつあります。

そんな折、「NPO 法人日本がん・生殖医療研究会」から本学会へ、連携協力の要請が入りました。設立記念に開催された「がんと生殖に関するシンポジウム2013」（4月21日）は盛況で、関心の高さが伺えました。プログラムは、妊孕性温存療法の実際、乳腺腫瘍・子宮頸がん・泌尿生殖器腫瘍・血液腫瘍・小児・思春期腫瘍の治療と生殖機能、周産期医療、倫理や精神的サポートなど多岐にわたる中、看護の視点での報告がなく残念な思いをしました。その後、研究会代表の鈴木先生と話をしました。鈴木先生は、これまで生殖医療に携わる産婦人科医とがん治療に携わる腫瘍専門医間で、がん患者の妊孕性温存療法に関して議論されることがなく、両医療従事者の認識にも格差が大きいことを問題視していました。そこで、医療職及びがん患者へ向け「がん・生殖医療」の普及と教育を志向したいと考え研究会を設立したそうです。まずは「草の根活動」を主として、がん治療領域関係者を対象とした講演会やシンポジウム、学術集会での講演、サバイバーや一般の人を対象と

した公開講座等を計画しているそうです。それを推進するため、本学会に研究会の企画に看護の視点で一緒に参画してほしいこと、学会・研究会での交流、ホームページのリンクなどが提案されました。

研究会が本学会に求めている事項は対応可能と考えておりますが、具体的な取り組みに対しては理事会で検討し、随時皆様にもお伝えしてきたいと思っております。忌憚のないご意見等、いただけたら幸甚です。

参考)「日本がん・生殖医療研究会」<http://www.j-sfp.org/>



フォーラム「うむって すばらしい・・・」

In 米子に参加して



福井大学医学部看護学科 上澤 悦子

「うむって すばらしい・・・」なんて魅力的なテーマだと思いませんか。

まず、このテーマに惹かれ、3月24日(日)に山陰の米子市で開催されたフォーラムに参加しました。ミオ・ファテリティ・クリニック(以下MFC)の企画・主催のフォーラム内容は講演、女子会トーク、パネルディスカッション、ブース展示で構成され、会場入り口には天井まで届く春の生花が参加者を迎えていました(上の写真)。見尾保幸先生の講演は、タイムラプス映像での生命創造の奇跡的なドラマを支える豊かで感動的な女性の身体への畏敬と授かった生命に対するあふれる愛に満ちていました。

また、NHKスペシャル「卵子老化の衝撃」の製作者のNHK記者である牧本真由美氏やママタレントの豊田エリー氏らを交えた女子会トークやパネルディスカッションの企画は、多様な女性の生き方や価値観のなかで「うむ」ことをどう考えていくのかを、一般女性感覚で自分の思いを自由に語っており、とても新鮮に感じました。



参加者は米子市を中心に遠くは広島からなど300名を越え、20代~40代のカップルが中心であったが、50代~70代の女性の参加も1割を占め、母性本来の特性である「うむことのすばらしい体験」は、年代を超えて惹きつけて離さない関心ごとであり、孫の誕生を心待ちにしている方々の関心の強さを感じました。「うむ」ことをさらに「すばらしい」ことへと支援できるわたしたち生殖看護学会は、専門職向けのイベントだけでなく、もっと一般女性の目線と視点の企画での「うむ」意義、子どもを育てるすばらしさに関する情報を発信する必要があると強く実感した一日でした。



【みおごはん】

会場の1階では、医療スタッフ手作りのさまざまな展示コーナーが設置されていました。

なかでも無農薬野菜、雑穀を中心レシピとした身体にやさしい「みおごはん」コーナーは参加者をひきつけていました。

第11回日本生殖看護学会学術集会のご案内

テーマ：生殖看護における不妊専門相談センターの活用と連携

平成25年9月1日（日）ホテル京都エミナース明治アニバーサリーホールにて開催予定

厚生労働省では、平成26年までにすべての都道府県・指定都市・中核市に「不妊専門相談センター」を整備することを目標に掲げており、現在多くの不妊専門相談センターで、医師や心理カウンセラーと共に看護職が相談事業に関わっています。公的不妊相談機関における看護活動について、目標年度を来年にひかえる今、専門医療施設との連携も含め、改めて考えてみたいと思います。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

（学術集会長 矢野恵子）

<プログラム>

9：00～	開会挨拶・オリエンテーション 会長講演 「不妊専門相談センター活動の概要と看護職の関わり」 基調講演 「不妊専門相談センターにおける相談活動の実際と今後の課題」 橋村富子（日本赤十字豊田看護大学） 教育講演 「不妊治療領域における鍼灸治療の実際」 田口玲奈（明治国際医療大学鍼灸学部） 一般演題（口演）
12：00～	昼休み ※12：00～15：00で、京都エミナース6階の明治国際医療大学統合医療センターの施設見学・実践見学を計画しています。後者は、当日朝に時間帯を発表し整理券を配布させていただきます（1回30分程度、先着50～60名程度）。
13：00～ 13：30～ 15：00～	総会 一般演題（ポスター）および交流 シンポジウム 「不妊専門相談センター活動における職種間連携と看護職への期待」 行政（企画）の立場から：阿部茜（大阪府男女共同参画推進財団事務局ディレクター） 医師の立場から：安藤寿夫（豊橋市民病院総合生殖医療センター長／産婦人科第一部長） 心理職の立場から：枝元直子（筑波学園病院不妊カウンセラー） 看護職の立場から：石村美由紀（福岡県立大学看護学部講師） 指定発言者 辻原科子（天の川レディースクリニック不妊カウンセラー）
～17：00	藤島由美子（越田クリニック看護師長）

<参加申し込み方法> ※事前申し込みは平成25年7月31日（水）までに郵便振り込みでお手続きください。

事前登録：会員5,000円 非会員6,000円 学生（大学院生・研修生は除く）1,000円

当日参加：会員6,000円 非会員7,000円 学生（大学院生・研修生は除く）2,000円

事前登録時のお振込先：【口座番号】00930-0-202006 【加入者名】第11回日本生殖看護学会学術集会事務局

★会場ホテルでの学会参加者早期割引料金設定あり。

（ホテルに直接お問い合わせください TEL：075-332-5800）

★お問い合わせ先：第11回日本生殖看護学会学術集会事務局

TEL：0771-72-1181（内線）769 /e-mail：jsfn2013@meiji-u.ac.jp （担当者：夏山洋子、糠塚亜紀子）

もし不妊看護の現場で行き詰まったら…

日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいる患者さんにどのように対応したらいいのだろうか？」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか？」など、臨床の現場ではシステムや価値観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じることがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています！

なお、詳細は学会ホームページをご覧ください。

第9回生殖看護実践セミナー

今年4月から新生前診断が開始され、社会的な関心が高まっています。これらの診断の意思決定に関してどのような看護支援が必要なのか、皆様と一緒に考えたいと思います。是非ご参加ください。お待ちしております。

教育推進委員会：森 恵美

テーマ 『出生前診断の意思決定に関する看護支援

～当事者の葛藤とどう向き合い、意思を支えるか～』

【日時】平成25年8月31日（土） 13：30～16：30（13：10～ 受付）

【場所】京都テルサ東館（スポーツセンター）3階D会議室

【参加費】会員 無料 非会員 1,000円 【定員】70名（先着）

【プログラム】講演「出生前診断の意思決定に関する看護支援」

講師：有森直子氏（聖路加看護大学教授・日本遺伝看護学会理事長）

【交通のご案内】京都テルサ東館（スポーツセンター）3階D会議室

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70番地（京都府民総合交流プラザ内）

URL <http://www.kyoto-terrsa.or.jp>

（JR京都駅（八条口西口）より南へ徒歩約15分、近鉄東寺駅より東へ徒歩約5分、

地下鉄九条駅④番出口より西へ徒歩約5分）

【お申込み方法】「氏名、ご所属、会員番号、連絡先電話・FAX番号、メールアドレス」を明記の上、

8月28日(水)までにメールもしくはFAXでお申し込みください。

【お申込み・お問い合わせ先】

日本生殖看護学会教育推進委員会（担当：坂上明子）

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野内

電話& FAX 043-226-2411 e-mail : jsfn.edu@gmail.com

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。初めて企画を担当される方、あるいは自分たちの地区でもぜひ勉強会を開催したいけれどどうしたらよいかわからない…等、お気軽にご相談ください。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等をご連絡先までご連絡下さい。よろしくお願い申し上げます。

【連絡先】日本生殖看護学会教育推進委員会 担当理事 森 恵美

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野

TEL:043-226-2410、FAX:043-226-2414 E-mail : mori@faculty.chiba-u.jp

勉強会等の運営費の助成

生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、勉強会等の運営費を助成します。助成金は企画1件につき1万円です。日本生殖看護学会ホームページに、応募資格や応募方法等が掲載されていますので、ご覧ください。また、助成に関してご意見等がありましたら、上記勉強会支援の連絡先までご連絡ください。

第5回関西地区勉強会報告

1月20日「不妊治療後に流産・死産を経験した方への看護」をテーマに、学会から助成を受け関西地区勉強会を開催いたしました。定員をはるかに超えた92名の参加者で、千葉・広島など遠方からもおいでいただきました。生殖医療従事者のみならず、周産期からも多数参加いただきました。死産や流産患者さまに関わる際に戸惑いや関わることへの難しさを感じており、興味深いテーマであったと考えられます。

講師に、広島大学大学院博士後期課程・尼崎医療生協病院の岡永真由美先生を迎え、「不妊治療に関連した女性の悩みや気持ち」「喪失と悲嘆」「ベリネイタルロスの特徴」「支援のあり方」について講義していただきました。その後グループディスカッションでは各グループ事例を用いて、関わりが難しく悩んだ場面を出し、その場面でどういう気持ちになったのか、またどのように対処したのか話し合いました。

提示された事例内容は、“戸惑いを感じ関わりが難しく悩んだ場面として、出産間近で胎児心拍停止となった状態の対応で、言葉を失ってしまい背中をさする事しか出来なかった”、“妊娠したが心拍確認できない事例で、気持ちをくみ取って患者様に寄り添わなければならないのに、手術の流れについてしか話せず声かけができなかった”。講師からは、「言葉がけはしなくても、ともにその場において気持ちの共有（共感）をすることが大切。今みんなが実践していることに自信を持ってください。」との言葉をいただいた。

アンケートからは、今回の勉強会に95%の参加者が“満足できた”という結果でした。“自分の知らなかったグリーフケアの事が聞けて勉強になった”、“グループディスカッションではお互いに共感できこれからの課題もできたので、今後の看護に活かしたい”、“言葉だけでなく一緒にいることだけでも看護になるのだなと感じた。何かをしないといけない、とか特別な事をするのではなく、丁寧に関わるのが大切だと感じた”、“気持ちをくみ取ろうとするその気持ちもケアのひとつなのだと思え、少し気持ちが楽になった”等の意見がありました。

また、関西地区不妊症看護ネットワークの体制を整える活動についても活発な意見交換がありました。これからは様々な視点を持ち、実践に生かせる勉強会を企画していきたいと考えています。

兵庫医科大学病院 松本 豊美
越田クリニック 藤島由美子
大阪大学医学部附属病院 小林 薫

●●●●●●第9回日本生殖看護学会 九州地区勉強会●●●●●●

今年で日本生殖看護学会九州地区勉強会は9年目を迎えます。

今回は、看護職として、妊娠判定陰性の方に向き合う時、『患者さんからの語りと私達看護師の聴く』ということに対する意味を再考してみたいと思います。妊娠判定陰性の時だけでなく、苦しみの渦中にある患者さんに、どう向き合い、対応することが必要なのか、日ごろの看護のジレンマに何らかのヒントを与えてもらえるかもしれません。九州地区以外の参加者の方も参加しやすいようアクセスの良い会場を準備してお待ちしています。

【日時】平成25年9月29日(日) 13:00~15:00 (12:30 受付開始)

【場所】JR博多シティ会議室 9階 第2会議室
(JR博多駅構内 博多阪急・アミュプラザ博多9階(映画館Tジョイ横))

【テーマ】「聴くこと、語ることの本当の意味 - 話して、離して、放す」

【講師】佐藤泰子 先生
京都大学大学院博士課程修了(人間・環境学博士)、京都大学非常勤講師
主に「聴くこと、話すこと」をテーマに、人間の苦しみと言語の関係を理解するために医療系学生への教育や講演活動を行っている。

【参加費】お一人2,000円(当日受付にてお支払いいただきます。)

日本生殖看護学会員の方は1,500円

【申込方法】FAX かメールでお申し込みをして下さい。

所属施設名、参加者全員のお名前、職種、参加人数をお知らせください。

また、領収書が必要な場合はその旨と宛名をお書き添えください。

【問い合わせ先】勉強会担当： 蔵本ウイメンズクリニック 村上貴美子

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1-1-19

TEL: 092-482-5558 FAX: 092-482-1415 E-mail: fukuda@kuramoto.or.jp

これから行われる学術集会・研修会情報 (2013年6月～12月)

月	日	学会・研修会名	会場	学会 HP / 運営事務局
6月	20日～ 23日	日本遺伝カウンセリング学会 (第37回) 「身近になる臨床遺伝～守るべきもの・広めるべきもの～」	川崎市産業振興会館 (川崎市幸区)	http://www.congre.co.jp/jsgc37/ 株式会社コングレ E-mail : jsgc37@congre.co.jp
	22日～ 23日	日本保健医療行動科学会 (第28回) 「やる気・やりがいと保健医療」	東京女子医科大学 河田町キャンパス・弥生記念講堂 他 (東京都新宿区)	http://jahbs.info/taikai28.html 東京女子医科大学看護学部 Email : jahbs.bk@twmu.ac.jp
7月	6日～ 10日	ヨーロッパ生殖医学会 : ESHRE (第29回)	ロンドン (英国)	http://www.eshre2013.eu/ ESHRE Central Office E-mail : info@eshre.eu
	27日～ 28日	日本女性心身医学会 (第42回) 「女性をはぐくむリズムとハーモニー」	J A 共済ビル カンファレンスホール (東京都千代田区)	http://www.k-con.co.jp/42jspog.html 株式会社ケイ・コンベンション E-mail : 42jspog@k-con.co.jp
8月	8日～ 9日	日本受精着床学会 (第31回) 「これからの生殖医療—生まれてくるこどものために—」	別府国際コンベンションセンター (別府市)	http://jsf31.umin.jp/ (株)コンベックス E-mail : jsf31@convex.co.jp
9月	1日	日本生殖看護学会 (第11回) 「生殖看護における不妊専門相談センターの活用と連携」	ホテル京都エミナース 明治アニバーサリーホール (京都市西京区)	http://jsfn2013.kenkyuukai.jp/event/ 明治国際医療大学看護学部 母性看護学ユニット E-mail : jsfn2013@meiji-u.ac.jp
	14日～ 15日	日本遺伝看護学会 (第12回) 「遺伝看護の新たな展開を考える」	いわて県民情報交流センター アイーナ (盛岡市)	http://idenkango.com/05/12.html 日本遺伝看護学会第12回学術大会事務局 E-mail : 12idenkango@mliwate-pu.ac.jp
	14日	性科学セミナー (第15回)	ワークピア横浜 (横浜市中区)	http://www14.plala.or.jp/jsss/seminartop.html
	15日	日本性科学学会 (第33回) 「性科学から性哲学へ—性科学の守備範囲再考—」		
10月	4日～ 5日	日本母性衛生学会 (第54回) 「女性の疾病への対策と食生活の改善」	大宮ソニックシティ (さいたま市大宮区)	http://www.ibmd.jp/bosei54/ 株式会社 プランニングウィル E-mail : jsmh2013@pw-co.jp
	12日～ 17日	米国生殖医学会 : ASRM (第69回)	ボストン (米国)	http://www.asrm.org/IFFS-ASRM2013/
	17日～ 20日	The 5th Scientific Meeting of the Asia Pacific Menopause Federation (第5回アジア太平洋閉経学会)	京王プラザホテル (東京・新宿)	http://www.congre.co.jp/apmf2013/
11月	10日～ 11日	日本周産期メンタルヘルス研究会 (第10回)	日本赤十字看護大学広尾キャンパス (東京都渋谷区)	http://pmh.jp/
	15日～ 16日	日本生殖医学会 (第58回) 「生殖医療の未来を見据えて」	神戸国際会議場、神戸ポートピアホテル (兵庫県神戸市)	http://www.k-svr.net/jsrm58/ 福田商店広告部 学会事業部 E-mail : 58jsrm@adfukuda.jp
12月	6日～ 7日	日本看護科学学会 (第33回) 「看護の力で社会が変わる」	大阪国際会議場 (大阪市北区)	http://www.c-linkage.co.jp/jans33/ 株式会社コンベンションリンクージ E-mail : jans33@c-linkage.co.jp

理事会報告

第3回臨時理事会（書面決議）

日時：2012年12月21日(金)

場所：書面による。

出席者：野澤、森明、岸田、遠藤、有森、清水、實崎、上澤、橋村

【審議事項】

1. 看保連 役員公募：本学会からの立候補に不賛成を承認。

第4回臨時理事会（書面決議）

日時：2013年1月30日(水)

場所：書面による。

出席者：野澤、森明、遠藤、實崎、岸田、橋村、清水、村本、上澤、有森

【審議事項】

1. 入会審査：5名の入会が承認。

【報告事項】

1. 国際生殖医学会の名義後援を依頼され、受け入れた件を報告。

第5回理事会

日時：2013年3月28日(木) 15時00分～17時20分

場所：聖路加看護大学本館5階506室

出席者：野澤、森明、菅野、有森、遠藤、岸田、矢野（オブザーバー）

【報告事項】

1. 第11回日本生殖看護学会学術集会：学術集会のリフレット完成、学術集会ホームページ作成中、学術集会の演題査読の依頼等を報告。
2. 理事長：「新型出生前遺伝学的検査」の検討資料、会員に情報提供する意向、第12回健やか親子21推進協議会総会への出席等を報告。
3. 広報委員会：広報媒体の作成、平成25年度広報活動計画、ニュースレターNo.35 掲載記事(案)等を報告。
4. 教育推進委員会：生殖看護実践セミナーの日程、場所、テーマ等を報告。
5. 実践開発委員会：委員会のメーリングリスト作成、Fine 祭りへの不妊症看護認定看護師を派遣するマニュアルの整備等を報告。
6. 編集委員会：学会誌第10巻の編集の進行状況を報告。

7. 将来検討委員会：研究推進支援、相談窓口の在り方を考えていく方向性等を報告。
8. 総務：学会員数、会費納入率、理事長の健やか親子21推進協議会総会出席等を報告。
9. 看保連対応WG：第7回三保連合同シンポジウム参加、あり方検討会の出席等を報告。

【審議事項】

1. 入会審査：4名の入会が承認。
2. 広報委員会への予算補助：活動媒体の刷新として、7万円の予算補助を承認。
3. 次次期の学術集会長について：上澤副理事長から菅野理事の推薦がなされたが、所属施設長の許可を確認するまで返事を保留。
4. 日本がん・生殖研究会HPに記載協力：設立シンポジウムでの情報収集後に再検討。
5. 厚生労働省の不妊に悩む方への特定治療支援事業等の在り方に関する検討会：日本生殖看護学会としての出席依頼が森明理事に指名があり、出席を承認。

第6回臨時理事会（書面決議）

日時：2013年4月4日（木）

場所：書面による。

出席者：野澤、森明、岸田、村本、上澤、實崎、清水、有森、遠藤、橋村、菅野

【審議事項】

1. 入会審査：1名の入会が承認。

第7回臨時理事会（書面決議）

日時：2013年4月22日（月）

場所：書面による。

出席者：野澤、森明、遠藤、村本、有森、實崎、清水、橋村、岸田、上澤

【審議事項】

1. 第12回学術集会の会長推薦者と場所：小松原幹事を推薦し大阪市での開催を承認。
2. 平成26年診療報酬改定に向け「不妊症患者 外来相談支援料の算定」要望書および参考資料の提出：承認。
3. 日本がん・生殖医療研究会(JSFP)からの協力依頼に対し、具体的な協力依頼を明確にし、本学会の目的および実行可能性と照らして検討すること：承認。

掲示板

<聖路加看護大学看護実践開発研究センターからのお知らせ> 不妊症看護認定看護師教育課程の研修生募集

2014年度の不妊症看護認定看護師教育課程の研修生を募集いたします。

〔願書受付期間〕2013年8月26日(月)～9月6日(金) 消印有効

〔試験日〕2013年10月5日(土)

〔研修期間〕2014年6月1日～2015年2月28日（9ヶ月間）

*毎週金曜日と土曜日の週2日の開講です。ただし、8月末から9月末の約5週間は平日連日の集中授業、11月から12月の約4週間は平日連日の実習があります。

また、2013年度の聴講生も募集しております。

研修生および聴講生の募集の詳細な要項は本学ホームページ (<http://rcdnp.slcn.ac.jp/nintei>) をご覧ください。

不妊症看護認定看護師
リレー寄稿

No.
14

「～不妊相談の実践から感じること～」

弘前大学医学部附属病院 神戸研修センター 4期生 前田あかね

当院には不妊治療、とりわけ体外受精を行っている施設が県内に少ないため外来には県内外より多くの方が通院されています。平成23年度は採卵288周期 胚移植155周期を行いました。

私は不妊外来に勤務して3年がたちました。採卵の準備、診察の介助、自己注射の説明等をしながら不妊症看護を行っていくことの難しさを感じています。その中で認定看護師の看護実践として昨年10月より不妊相談（女性相談）を始めました。

現在は週1回で1組を予約制で行っています。相談者は治療歴が長く40才を越えた方が多くを占めています。相談内容としては「今後のことについて」質問としては「治療をやめるきっかけは皆さん何でしょうか?」「何歳まで治療できますか?」ということが一番多いです。治療は続けていきたい気持ちはあるものの年齢の壁、治療の不成功が続くと精神的にも辛くなります。しかし、患者さんが自己の現状を把握、理解し、今後どうしたらよいかを自己決定できるように今までの治療の経過の振り返り、ストレス、思いを傾聴しつつ必要な情報提供を行っています。相談の最後にははっきりした、自分の考えがまとまったという言葉が聞かれるようになります。インターネット等で不妊治療についても多くの情報を得ることができますが、やはり話すことで考えがまとまることが多いようです。

毎週水曜日は外来は妊婦検診のみとなり、不妊外来で治療し妊娠した方も通院されています。保健指導で面談すると妊娠をやっと16週になってから受け入れた方、不育症治療している方は、いつまでも安心できないと悩みを訴えられますが妊娠したことを肯定的に受け入れるようにお話をすると安心されて帰られます。

不妊症看護を行っている、患者さんもですが看護師も精神的に辛い場面に遭遇することが多いと思います。その時に自分に何ができるのかを自問自答しながら少しでも患者さんの役に立てる看護をして行けることが自己のモチベーションの維持につながるのではないかと思います。

今後の課題としては、大学病院ということから悪性腫瘍の治療前の受精卵凍結、卵巣凍結、不育症等難しいケースもあり、不妊症認定看護師の皆さんと情報交換していきながら自己研鑽していけたらと思います。

事務局からのお知らせ

1. 事務局のFax/Tel 番号が変わっています。新番号は03-5550-2293です。旧電話番号への問い合わせが続いています。お間違えのないようにお願いします。メールアドレスは従来通りjsin@slcn.ac.jpです。日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailもしくはFaxで、気軽にご連絡ください。
2. 2012年度より、学会の年会費が8,000円になりました。会費納入は、できるだけお早めに、金額をお間違えなく、お願い申し上げます。
3. 異動・転居された方は必ず事務局までご連絡願います。ニュースレター、学会誌の送付はメール便を使用しているため、郵便と異なり、転送されません。
4. 会員数326名（平成25年4月末現在）です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。
5. 日本生殖看護学会ホームページ <http://jsin.umin.jp> についてお気づきの点がありましたら事務局までお知らせください。今後も適宜更新していきますので、ぜひ新しい情報をご活用ください。

編集後記

梅雨の晴れ間に、夏を待ちきれない太陽が顔をのぞかせています。今号は、学術集会や勉強会等の参加報告、開催案内を中心とした構成となりました。新しい知見に触れることで、日常業務のモヤモヤが解消されることもあると思いますし、職場を一時離れることで、気分転換にもなると思います。自己研鑽のためにも、心惹かれるものには積極的に参加してみましょ。9月の学術集会で皆様にお会いできることを楽しみにしています！

広報委員：上澤悦子、實崎美奈

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing: JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-5550-2293

E-mail: jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp>